

Contents	
1	大学博物館等協議会 2021 年度大会・第 16 回日本博物科学会開催報告 香川大学博物館 館長 寺林 優
3	静岡大学キャンパスミュージアムの新規オープンから 1 年 静岡大学キャンパスミュージアム 館長 塚越 哲
4	愛知学院大学歯学部歯科資料展示室のご紹介 愛知学院大学歯学部歯科資料展示室 (解剖学講座) 講師 子安和弘
6	東京工業大学博物館「新しい生活様式」に対応したリニューアル 東京工業大学博物館 研究員 服部佐智子
8	名古屋大学博物館 新規の教育普及活動「サイエンス&アート ワークショップ」開催について 名古屋大学博物館 学芸員 宇治原妃美子
10	特別展「メタセコイア～生きている化石～」開催 香川大学博物館 館長 寺林 優・事務補佐員 井上幸恵

大学博物館等協議会 2021 年度大会・第 16 回日本博物科学会開催報告

香川大学博物館 館長 寺林 優

初めてのオンライン大会

第 24 回となる大学博物館等協議会 2021 年度大会・第 16 回日本博物科学会が 2021 年 6 月 24 日 (木)・25 日 (金) に、オンラインで開催された。大会として初めてのオンライン開催に至った経緯、準備および開催記録を報告する。

現地開催中止とオンライン開催決定

2020 年 2 月に新型コロナウイルス感染症が拡大し、3 月には国内にも影響が出始めた。2020 年 6 月に九州大学総合研究博物館での開催が予定されていた第 23 回となる大学博物館等協議会 2020 年度大会・第 15 回日本博物科学会は、急遽中止せざるを得なかった(緒方一夫, 失われた大会. 大学博物館等協議会ニューズレター, No.22, pp.1-2, 2020)。2020 年度中は、コロナ禍で閉館を継続せざるを得なかった加盟館が大多数であったが、年度末までに閉館を再開している加盟館も見受けられ、香川大学博物館も 2021 年 2 月に閉館を再開した。2021 年 6 月 24 日 (木)・25 日 (金) に琉球大学博物館 (風樹館) での開催が予定されていた第 24 回となる大学博物館等協議会 2021 年度大会・第 16 回日本博物科学会は、新型コロナウイルス感染症がこのまま収束に向かえば開催できるのではないかと考えていた。

大学博物館等協議会 (以下、協議会) 拡大三役会議が 2021 年 3 月 5 日 (金) にオンラインで開催された。出席者は、2021 年度三役の永益英敏会長 (京都大学総合博物館)、寺林優副会長 (香川大学

博物館)、西秋良宏監査 (東京大学総合研究博物館)、次年度開催校である琉球大学博物館の立田晴記館長と各校の事務局他が陪席した。開催方法として、(1) 通常通り会場校開催、(2) ハイブリッド (会場校+オンライン) で開催、(3) オンラインのみで開催が候補として挙がっていた。琉球大学博物館の立田館長より、沖縄県の感染者数が減少していないことから琉球大学での開催を 1 年延期してほしいとの要望が出された。開催校の要望を尊重しつつ、2 年続けての中止を避けるために、オンラインのみで開催を原案とした。オンライン開催は、2021 年度からの会長校である香川大学博物館が中心となり、2020 年度末までの会長校である京都大学総合博物館も協力し、他に有志を募って実行委員会を組織することが申し合わされた。早速、永益会長名で協議会加盟館館長および日本博物科学会 (以下、博物科学会) 理事宛に開催方法の変更を審議するメールが送信され、3 月 12 日 (金) の回答期限までに反対意見がなく了承された。

開催準備

香川大学博物館は、会長校ならびに協議会事務局として、協議会加盟館の連絡先名簿の更新、館長会議および総会の議事、博物科学会の会員名簿の更新、理事会および総会の議事等の準備を予定していたが、協議会でのシンポジウムの企画立案、博物科学会のプログラム作成、大会運営に至るまで、実行委員会の中心として、ほとんど全てを担うことになった。

ビデオ会議システムとしては Zoom ミーティングを使うことにした。学会や多くの大学での授業で広く用いられるまでに普及していたのが理由で

ある。また、2020年12月にオンラインで開催された日本植物分類学会の開催案内や参加者への留意事項を永益会長に紹介していただき、参考にさせていただいた。

ポスター発表と各館の紹介は実施しないことにした。これまでの協議会・博物科学会の大会と同様に、参加登録（講演参加、聴講参加）者だけが参加できる形とした。博物科学会のプログラム編成の際は、セッションに多くの講演が連続して、聴講者の集中が途切れないように、休憩時間を十分に取るように配慮した。

シンポジウムは、コロナ禍における大学博物館の開館や活動、学芸員教育の状況をテーマとすれば良いと考えた。東京農工大学科学博物館の齊藤有里加氏が、「大学博物館 ZOOM 会」を立ち上げ、「大学博物館 ML」グループでの情報交換の場を設定されていたことから、シンポジウムの中心となる話題を提供していただけるものと確信していた。

香川大学では、教職員が参加する遠隔会議では主に Microsoft Teams を使用し、教員は授業や学外との打ち合わせで Zoom を使用していた。大会運営にあたっては、事務職員の協力が欠かすことができないが、香川大学学術部情報図書グループには、慣れない Zoom での開催に対応していただいた。

開催当日

2021年6月24日（木）12時30分から、協議会館長会議と博物科学会理事会の受付開始（Zoom ミーティング①入室開始）し、13時から両会議が順に開催された。質問は Zoom のリアクション「挙手」機能、採決は Zoom の投票機能を用いて行った。館長会議は、構成員の総数41に対し、出席19、委任状による代理出席4、委任状（会長に一任）14、欠席4で、過半数以上の定足数を満たしていた。理事会の定足数は、構成員の3分の2以上の出席であるが、構成員の総数41に対し、出席18、委任状による代理出席4、委任状（会長に一任）15、欠席4であった。

13時30分から、協議会の受付を開始（Zoom ミーティング②入室開始）し、14時から協議会を開催した。オンライン大会の参加方法説明、実行委員会委員長の寺林の挨拶（図1）に引き続き、協議会シンポジウム「コロナ禍における大学博物館と学芸員養成」に移り、佐藤琴氏（山形大学附属博物館）と寺林からの趣旨説明の後、齊藤有里加氏（東京農工大学科学博物館）より「コロナ禍



図1. 実行委員会委員長挨拶の様子 図2. 1日目の大会運営の様子

における大学博物館」、熊澤弘氏（東京藝術大学大学美術館）より「『密を避ける』ための苦悩—コロナ禍における藝大美術館の学芸員課程—」、佐藤琴氏（山形大学附属博物館）・山本陽史氏（山形大学）より「ボローニャ大学博物館と山形大学附属博物館：共通する課題と今後の交流」と題しての講演が行われた。その後、活発な討議と意見交換が行われた。シンポジウム終了後の15時20分から、協議会総会、引き続いて博物科学会総会を開催した。シンポジウムおよび両総会への参加申し込みは116名であった。

2日目の博物科学会は、8時30分から受付開始（Zoom ミーティング③入室開始）した。「教育」3件、「展示」5件、「研究」3件、「情報」1件の計12件の口頭発表が行われた。参加申し込みは101名であった。Zoom ミーティングの入退室記録から、参加者数は88名、最大入室人数は、午前の部で77名、午後の部も77名であった。現地開催の場合には、最終日の午後になると交通手段の時間的制約のため帰路につく参加者が見受けられたが、最後まで聴講できるのがオンライン開催のメリットでもあることが分かった。

反省と今後に向けて

初めてのオンライン開催であったが、全体的に円滑に進行することができたと考える。前会長校の京都大学総合博物館が、在任中に規程改正等を終えており、深い議論を必要とする案件がなかったことにもよる。

第25回となる大学博物館等協議会2022年度大会・第17回日本博物科学会も、当館が中心となって実行委員会を組織し、2022年6月16日（木）・17日（金）にオンライン開催することになった。2年連続の開催であり、安易かと思われるかもしれないが、1年経過するとほとんどのことを忘れており、この原稿を執筆するにあたり、前回大会の資料を見直し、大会の準備に忙殺されている状況である。

来年度以降の大会が現地開催となり、加盟館の皆様と対面して懇談し、施設見学等も行える日が来るのを楽しみにしております。

静岡大学キャンパスミュージアムの 新規オープンから1年

静岡大学キャンパスミュージアム 館長 塚越 哲

新規オープンから1年

静岡大学キャンパスミュージアムは、昨年4月1日に新規オープンして以来1年が経過した。新しいミュージアムは開館から好評で、今年3月1日までに1,800人の来館者を数えた（来館者数を実績とするのは甚だ本意ではあるが）。また訪問依頼のあった団体は7団体に上り、地元の静岡新聞にもたびたび取り上げられた。コロナ禍であることや、本学（静岡キャンパス）の立地からすれば、新規オープン前とは全く違った手ごたえとなった。

全学的なミュージアムへ

この1年は単に展示スペースの充実を図るといふミュージアムプロパーの役割にとどまらず、ミュージアムリソースの活用を全学的に行う活動を開始した。一つは学長裁量経費により予算を得た「ウェルカムエリア構想」で、理学部、人文学部にも新たに展示スペースを新設した。また同構想の中で、隣接する大学文書資料室とも連携して大学史を目で追える年表や旧制静岡高校の資料などの展示を充実させた。

また昨年度「ウェルカムエリア構想」と同時に採択された「東部キャンパス全体のミュージアムの機能強化事業」では、理学部にさらに展示スペースを設け、そこでは今年度初頭に新入生に向けた学部の内容を解説した。また同事業では本学の魅力を伝える企画としてドローンによる静岡・浜松の両キャンパスの空撮動画撮影も行った。これはキャンパスミュージアムのHP (<https://wpp.shizuoka.ac.jp/campusmuseum/>) からも見られるようにし、すでに新入生歓迎や大学のアピールにも使われ始めている。この撮影を通して、これまで交流のなかった浜松キャンパスにあ



写真1. 理学部に設けられた新たな展示スペース

る高柳記念未来技術創造館とも連携する機会を得、両館が東西キャンパスを結びつける働きを発揮するようになりつつある。

新しいミュージアムは学外との連携強化にも取りかかった。まず、静岡県くらし・環境部と連携して南アルプスの自然に関する共同研究を行い、その成果を「ウェルカムエリア構想」で整備した理学部の展示スペースで情報発信を開始した。また本学の近隣にある静岡県立ふじのくに地球環境史ミュージアムと共同研究も実現し、共同企画展「足もとの小さな世界:見えないものほど面白い。」(<https://www.fujimu100.jp/event/pf-event/?id=5>) (5月21日から8月28日) を共同開催する運びとなった。このような活動をへて、全学的な機能を持つミュージアムへと展開途中である。

研究組織としてのミュージアムへ

平成初期の「大学博物館構想」以降、国立大学が法人化され、その結果、地方大学も学内措置として独自に大学博物館をもてるようになった。しかしその役割は広報活動の拠点として期待される



写真2. ドローン空撮による静岡キャンパス



写真3. 充実させたミュージアムグッズ

色合いが強い。私たちの様々な活動も、それが一定の評価を得るとあたかも本来の大学博物館の機能であるかのように錯覚しがちである。しかしそうではなく、本来大学博物館は、大学がもつ学術的リソースを研究・教育に資する組織であるはずだ。これを全学に認識してもらうために、キャンパスミュージアムとは別に、本学にバーチャルで設立できる「プロジェクト研究所」としてこの機能を持つ組織の立ち上げを試みた。審査する本学の会議に申請書を提出するも、なかなか「ミュージアム活動」と「研究」とが結びつくという理解が得られず、申請から1年かけてようやく「設置承認」にこぎつけた。新しいプロジェクト研究所

は「ミュージアムリソース研究所」として5月1日に設置された。バーチャル研究所ではあるが、ここを足場に研究組織としてのミュージアムを本学に定着させたいと構想を考えている。

小さな楽しみ

キャンパスミュージアムのワーキンググループでは、ミュージアムグッズの充実も試みている。グッズは非売品だが来館者には好評で、新入生先着30名分のグッズ（実際には50名分）はあっという間にはけた。

*本稿は「静岡大学キャンパスミュージアムニュースレターNo.23」の記事の内容を一部再録している。

愛知学院大学歯学部歯科資料展示室のご紹介

愛知学院大学歯学部歯科資料展示室（解剖学講座）講師 子安和弘

愛知学院大学は愛知県名古屋市に法人本部のある私立総合大学であり（学生数約1万2000人）、10学部16学科ならびに短期大学部が名古屋市および隣接する日進市に存在している。本学には博物館学芸員課程を受講できる3学科（歴史学科・日本文化学科・宗教文化学科）が文学部にあり、こうした学科で学芸員資格を取得する際の展示実習（資料の展示や保存に適切な管理、教育普及などの知識の学習）にも利用される人文系博物館が日進市の文学部内に設置されている。一方、名古屋市千種区の楠元キャンパスには歯学部・薬学部・短期大学部（歯科衛生学科）など医療系の教育学部・短期大学部が存在していて、ここには歯学部附属した「愛知学院大学歯学部歯科資料展示室 AGU Dental Science Museum」（以下歯科資料展示室と称する）が設置されている（図1）。今回は本学の博物館のうち、後者の歯科資料展示室について紹介する。

歯科資料展示室が所属する歯学部は名古屋市千種区内に2つのキャンパスがあり、それらは病院を主とした末盛キャンパスと基礎教育課程および図書館情報センターが位置する楠元キャンパスである。歯科資料展示室は38年前の1986年に末盛キャンパスにある当時の病院の大学図書館「歯学部分館」の一部（「資料展示室」）として設立された。1989年には大学図書館より分離して歯学部

に移管され、1995年に歯学部創立35周年記念事業として「歯科資料展示室」という名称に改称して7階建て図書館棟の1階に開室され、「塔屋」と呼ばれていた5～7階に標本室が設置されていた（浅川，2002）。標本室のあった「図書館塔屋」は2005年に新設された薬学部医療薬学科の建設に伴って取り壊されたが、2009年には図書館棟の耐震補強工事ともなう館内再配置事業によって標本庫をもった「展示室」としてリニューアル・オープンした。この間、2006年には「博物館類似施設」として愛知県教育委員会に届け出るとともに愛知県博物館協会に加盟した。2010年には日本博物館協会に加入し、本年度（2022年度）は全国科学博物館協議会への加入手続きをすすめている。



図1. 愛知学院大学歯学部歯科資料展示室外観

今般のコロナ禍に対応するために一時的な閉館を余儀なくされたが、2022年4月2日から「事前予約」ならびに「人数制限」をおこない「通常開館」を開始し、コロナ禍以前からの開館時間（火曜・金曜：10時から16時）に復帰している。入館を希望する来訪者には、感染症予防対策として以下について要望している：1. マスクの着用、2. 発熱・風邪症状・体調不良の場合の入館制限、3. 入館時の検温、4. 入館時の手指消毒、5. 入館簿への氏名・連絡先の記入、6. 展示室内でのソーシャル・ディスタンスの確保、7. 館内での会話の制限、8. 咳エチケット実施の要請、9. 展示ケース・展示品への非接触の要請。

館内での展示は常設展示（通年実施）と特別展示（1年程度の特別展）にわかれており（図2）、常設展示では歯科治療の歴史・治療器具の変遷・海外の歯科治療器具の展示（図3）ならびにヒトを含む脊索動物の比較解剖学的な展示がおこなわれている。現在の特別展のテーマは「歯の神様：

神さま 仏さま 歯医者さま， part I & II」である。本展は、虫歯や歯周病に苦しめられてきた人々が、神様や仏様に歯痛止めを祈願してきた歴史と、その対象となった愛知県内の神社、お寺、および歯の塚を紹介している。さらに、これまで収蔵品を用いた研究も盛んにおこなわれているので、今後の研究成果も大いに楽しみである（Natsume *et al.*, 2005；2006；夏目ほか，2013；曾根ほか，2011）。

文献

- 浅川満彦，日本野生動物医学会ニュースレター，15：20-23，2002。
 Natsume, A. *et al.* Archives of Oral Biology, 50：849-860，2005。
 Natsume, A. *et al.* Archives of Oral Biology, 51：1040-1047，2006。
 夏目（高野）明香ほか．哺乳類科学，53：43-56，2013。
 曾根啓子ほか．名古屋市科学館紀要，37：34-42，2011。



図2. 愛知学院大学歯学部歯科資料展示室館内



図3. 1900年代（明治～昭和）の歯科診療器機

東京工業大学博物館「新しい生活様式」に対応したリニューアル

東京工業大学博物館 研究員 服部佐智子

東京工業大学博物館は、大学創立100周年を記念して建設された百年記念館（1987年、東工大プロフェッサー・アーキテクト篠原一男設計）を利用し、東工大で生み出された教育と様々な分野の研究成果を、その価値を伝承しつつ社会に向けて広く発信している。主たる展示空間である地下展示室は、その開館当初より常設パネルと特別にデザインされたガラスの展示ケース（設計：GKデザイン）によってその情報発信役を担ってきたが、その後の大学の体制変化（法人化や学院体制への移行など）を反映させた展示替えや新たな収蔵品の展示を困難にしていた（図1）。そこで、2020年には大規模企画展（「小森忍・河井寛次郎・濱田庄司 一陶磁器研究とそれぞれの開花」）、コロナ禍のため開催中止）の開催に向けた既存展示物の撤去、新型コロナウイルス拡大感染防止による休館を経て、ほぼスケルトン状態になった展示室を活かし、コロナ禍前の状態に復元するのではなく、新しい生活様式になるべく添う形でのリニューアルを行った。具体的には、パネルを取り払い、解説文を読むことによる人々の滞留を避けるよう、解説文をオンラインへ移行した（図2）。解説文をオンライン上に移すことで、来館者に展示物に集中して頂き、帰宅後それぞれのペースでゆっくり解説を読むことができれば、滞在時間に制限を設けても見学に支障がなくなると考えた。さらに、それほど広くない展示スペースを見通しの良いレイアウトにすることで、十分な間隔を確

保しながら見学して頂くという点でも効果的ではないかと考えた。オンライン展示解説のプラットフォームには、動作確認などメンテナンスを考慮し、既存プラットフォーム「note (<https://titech-museum.note.jp/>)」を利用し、来館者の手持ちの端末で、案内図に提示したQRコードから展示解説の特設ページにアクセスするシステムとした。

開館にあたっては、2021年11月から学内限定かつ1グループ5名程度の予約制という試験運用から始め、2022年3月から大学の新型コロナウイルス感染症対応規定により、学内学生・教職員等向けに限定公開し、5月23日からは感染対策をしながら一般公開を開始した。リニューアルした展示手法の検討のため、実際に展示を体験した方々のアンケートを実施している。その結果、混雑が避けられて良い、ゆっくり鑑賞できるので良いという多くの肯定的な意見が得られた。その一方で、QRコードが展示物の近くにあった方が良いという意見も複数人から寄せられた。そこで、新たに案内図とは別に展示ケース内に解説ごとのQRコードを設置することにした。今後も様々な年齢層に展示を体験して頂き、アンケート結果を参考にフレキシブルに改良に努め、より社会に開かれた博物館を目指していきたい。また、プラットフォームとした「note」は、コンテンツの修正も容易なため、内容をより充実させると共に、来館者にとって見やすいよりよいコンテンツの在り方を模索していきたい。

最後に、リニューアルに伴い、追加された主な新規展示について紹介する（図3、4）。

・蔵前キャンパスの整備：東京工業大学は、1881年に東京職工学校として設立された。創立から関



図1. 改修前の展示室の様子



図2. 改修後の展示室の様子

東大震災まで校舎のあった蔵前キャンパスの変遷について図面を交えて紹介するとともに、懐かしめの蔵前キャンパスの様子を当時の写真で再現している。

・型染絵による美の表現－芹沢銈介－：芹沢銈介は、1913年に東京高等工業学校図案科に入学し工業デザインの基礎を学び、日本古来の型染めと琉球の紅型染めを研究し、1943年に和紙に型染めする「型絵染」の技法を完成させた。芹沢はこの「型絵染」により、1956年に重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定された。手漉き和紙に型染めの技法で染めた「型染カレンダー」と共に、技法や意匠によって生み出された芹沢芸術を楽しめる。

・電気計測器類の展示：展示されている電気計測器類は、100年ほど前に欧米の会社から購入し、長年にわたって電気電子工学科の学生実験室に設置されていたものである。当時を偲ぶ、デザイン性が高いアンティークな計器類が見どころである。

・日本電気株式会社製誘導磁気ディスク式分離機：この装置は学内の実験廃液の一括処理を行う実験廃液処理施設に設置されていたもので、本学で発明されたフェライトを用いたフェライト化処理法（1975年）は分離・固定化された無機廃液

中の有害金属について土中に埋設後の金属溶出が無く、2次公害が生じない画期的な手法であり、歴史的に重要な科学技術といえる。

この他にも地下展示室内に新しく「企画ミニ展示」を立ち上げ、5月21日から「構造色 自然が作り出すまばゆい光彩を夢見て」（11月中旬頃まで）の展示を開始した。今回のリニューアルにより、展示替えの度に、物理的にパネルを作成しなくて済むことは、展示替えの時間短縮にも繋がるため、来る度に新たな発見のある博物館を目指して行きたい。さらに、休館中もオンライン親子科学教室「ウニの殻を観察し、ランプに変身させよう」（2021年8月）、東京都目黒区連携講座「ナノファイバーとウイルスを捕らえる技術—最新のマスクのしくみ」（2022年2月）などにより地域との交流を図ったように、今後も地域における文化・科学技術に関する学術交流の中心拠点として活動していきたい。

*本稿は「新しい生活様式」に対応した展示解説手法の検討（宮前知佐子『全国科学博物館協議会研究発表大会資料』29, pp.7-11, 2022）の内容を一部再録している。



図3. 電気計測類の展示



図4. 日本電気株式会社製誘導磁気ディスク式分離機

名古屋大学博物館 新規の教育普及活動「サイエンス&アート ワークショップ」開催について

名古屋大学博物館 学芸員 宇治原妃美子

名古屋大学博物館は、岩石・鉱物標本、植物標本などの自然史系標本を、多く所蔵・展示している博物館で、より開かれた皆が集うことができる新しい博物館をめざし、さまざまな展示や講演会、ワークショップなどの教育普及活動を開催している。

新規の教育普及活動として、芸術教育が専門の宇治原妃美子が、植物分類学が専門の西田佐知子と、サイエンス&アート ワークショップ①「植物標本まなびとドライフラワー万華鏡を作ろう！」を開催し、環境地質学が専門の吉田英一と、サイエンス&アート ワークショップ②「鉱物を粉にして絵を描いてみよう！」を開催した。

アート・芸術は、現在では「美術・美しいもの」という意味合いで使われることが多いが、昔は「広い範囲での学術」という意味で使われていた。研究者からのレクチャーと、広い視野をもって自然の植物・鉱物等にふれあい、自由に発想して創作する機会としてこのワークショップを開催するものとする。

サイエンス&アート ワークショップ①「植物標本まなびとドライフラワー万華鏡を作ろう！」

開催日時：2022年4月20日(水) 13:00-15:00

参加者：7名(小5~75歳)(ウェブ事前申込制 定員8名・欠席者1名)

会場：名古屋大学博物館野外観察園セミナーハウス



写真1. 植物標本についてのレクチャーのようす

本ワークショップでは、植物標本についてのレクチャーを西田が担当し、イベントで使用する植物の選定と準備を野外観察園担当者の吉野奈津子が担当した。なお、本ワークショップについての企画ミーティングを宇治原と吉野と事務員の榊原尚美とで数回開催し、「植物標本のレクチャーの後、万華鏡の筒に巻く紙に植物拓本した「ドライフラワーの万華鏡」を作成する」プログラムを完成させた。

イベントの流れは、

- ①西田から植物標本、植物分類についてのレクチャー(写真1)。
- ②宇治原からアクリル絵の具を使って、植物の拓本のしかたの説明。その後参加者は、用意された植物を紙に好きな色とレイアウトで拓本した(写真2)。
- ③西田から標本ラベルについてのレクチャー、そ



写真2. 植物拓本を製作しているようす



写真3. スマートフォンで撮影した万華鏡内部の画像

の後参加者は、拓本の植物に使ったメインの植物について、標本ラベルに和名と学名を記入した。

- ④参加者は拓本した紙を万華鏡の筒に貼り、万華鏡の先端に取り付ける蓋付きのプラスチックケースに、ドライフラワーを選んで入れた。
- ⑤ドライフラワーを入れたプラスチックケースを万華鏡の先端に取り付けて万華鏡を完成。
- ⑥植物拓本の仕上がりや万華鏡の見え方をシェアし、万華鏡内部をスマートフォンで撮影した(写真3)。

参加者の感想では、「植物にこんなにゆっくり向き合うというのが普段はないので、これからはきれいな花などを押し花にしてみたいと思った」、「植物を普段はただ見るだけであったが、今回のイベントのように芸術・アートになるのだったら、倍楽しめると思った」、「すごく楽しかった。これまでも別の施設で万華鏡を作ったが、植物を入れるという発想は無く、こんなにきれいなものなのだすごい発見があった。家族にも見せたい」という感想があった。

サイエンス&アートワークショップ②「鉱物を粉にして絵を描いてみよう！」

開催日時：2022年4月23日(土) 10:00-12:00
 会場：名古屋大学博物館実験室
 参加者：8名(中2年~75歳)(ウェブ事前申込制 定員8名)

マラカイトなどの鉱物は、日本画に使う「岩絵具」などに使われているが、あまり一般的に知られておらず、また数種類の鉱物を観察しながら、絵の具にして絵が描けて、さらに鉱物についてわかりやすく学べる機会は少ない。絵を描くのが好

きな人が鉱物や地質のことを学べ、また絵も鉱物も両方とも好きな人が、あらたな学びの機会となるようなプログラムを企画した。

イベントの流れは、

- ①宇治原から、鉱物を使って描かれている絵についてと、今回使用するマラカイトやアマゾナイトなどの鉱物8種についての紹介。
- ②吉田から、鉱物の色の主要要因についてのレクチャー(写真4)。
- ③宇治原から、雲肌麻紙と膠の紹介、削るための道具の使い方の説明、鉱物の粉を膠水と混ぜて絵の具にする説明(写真5)。
- ④参加者は、鉱物を削って膠水と混ぜて絵の具にし、雲肌麻紙にあらかじめチョウの輪郭を描いておいたものに着色する。さらに白地のパネルや紙には自由に描いてもらった(写真6)。

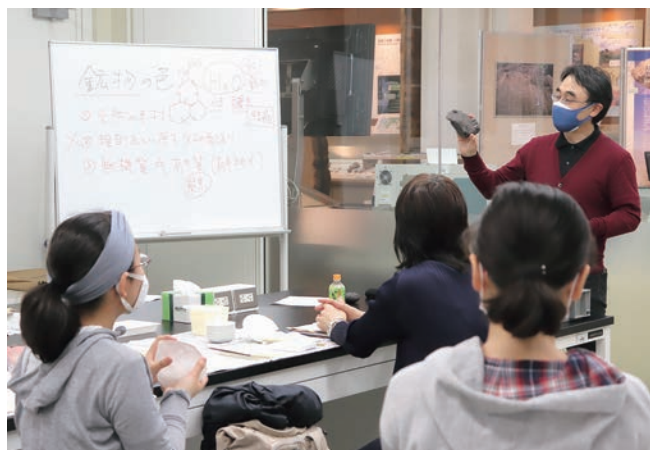


写真4. 鉱物についてのレクチャーのようす



写真5. 鉱物を削って絵の具にする方法の説明



写真6. 鉱物の絵の具を使って色を塗っているようすと参加者の作品

参加者からは「元々絵を描くのが好きで参加した。鉱物ごとに色の出方が違うのがわかった」、「あっという間の2時間で楽しかった。久しぶりに元素記号を聞いて記憶を辿って思い出し、頭が活性化した気がした」、「鉱物から作った絵の具は、普段使っている絵の具とは違う性質が色々あって、色もしっかり出ていて面白かった」、「根本的に鉱物に色をつく仕組みを教えてもらえてすごく楽しかった。鉱物の見た目と削った時の色の違い、液体にした時の色がすごく違ってそれが楽しかった」などの感想があった。

「植物標本まなびとドライフラワー万華鏡を作ろう!」では、参加者にとって、植物への関心が増す機会となった。植物拓本されたオリジナルの

万華鏡に標本ラベルを貼ったことにより、大学博物館らしいイベントとなったと考えられる。

「鉱物を粉にして絵を描いてみよう!」では、科学的な知識として鉱物の色の要因を学び、鉱物のそれぞれの触感や色などの違いを知り、そして思い思いに色を塗り、描く今までに無い体験となった。

コロナ禍の影響でそれぞれのイベントの参加人数が8名と少人数での開催となったが、ウェブ申込では申込開始時間直後に定員に達した為、市民に関心をもってもらえている企画だと推測している。今後も鉱物で絵を描く際に使用する、鉱物の選定や道具類を改善して、開催出来ればと考えている。

特別展「メタセコイア～生きている化石～」開催

香川大学博物館 館長 寺林 優・事務補佐員 井上幸恵

香川大学博物館では、特別展「メタセコイア～生きている化石～」を開催した。会期は2022年1月6日（木）から2月12日（土）、27日間で412人の来館があった。

香川県三木町出身で香川大学農学部の前身校である香川県立農林学校を卒業した三木茂博士が、ヒノキ科に属するセコイアやタクソディウム（ヌマスギ）とされてきた化石が新属であることを発見し「メタ（後の）セコイア」と命名してから2021年で80年を迎えることを記念して開催した。2021年は三木茂博士の生誕120年にも当たる。「生きている化石」の代表とも呼ばれるメタセコイアの植物形態学的な特徴を解説するとともに、三木茂博士の生い立ちからメタセコイアの化石の発見、そしてその普及にいたるまでの経緯、三木茂博士の偉大な功績について紹介した。大阪市立自然史博物館所蔵の三木茂博士が採集・研究したメタセコイア化石やプレパラート標本（大阪市指定文化財）などのほか、国立科学博物館、さぬき市雨滝自然科学館、香川県立五色台少年自然センター、三木茂博士資料館から借用した展示品ならびに提供されたデータから作成したパネル等を展示した。

香川県立五色台少年自然センターの専門職員が作成した解説パネルと展示は、同センターに学習

に訪れる中学校の生徒を主な対象とし、クイズ形式もあることから、一般来場者にも分かりやすいものとなっている。

会期初日の1月6日（木）には、9時30分からオープニングセレモニーを開催した。当初は、博物館前の屋外で実施予定だったが、雨天のため

図1. 記念事業のチラシ（表面）

展示室内で実施した。寺林優香川大学博物館長による主催者式辞、笈善行香川大学長の挨拶に引き続き、香川県教育委員会教育長の工代祐司氏、三木町生涯学習課課長の酒井孝純氏、香川県立五色台少年自然センター所長の愛染伊知朗氏、メタセコイア友の会・三木代表の高橋由美子氏ら来賓、香川大学長および博物館長の6名によるテープカットを行なった。オープニングセレモニー終了後には、香川大学博物館の篠原渉副館長（香川大学教育学部准教授）による展示解説も行なった。

同展は、メタセコイア命名80周年記念事業連携協議会の記念事業の一環として開催された。同協議会は、香川大学博物館、香川県教育委員会、三木町、メタセコイア友の会・三木が密接に協力・連携して事業を成功させるために設置された。香川の未来を担う子どもたちをはじめ、多くの県民に三木茂博士の功績を知ってもらい、後世に長く伝えることを目的とした。他の記念事業として、

2021年9月26日（日）には、記念講演会「自然の夢を追い続けた三木茂博士～メタセコイア発見から80年～」が塚腰実氏（大阪市立自然史博物館外来研究員）を講師として三木町防災センターで開催された。また、記念展示「メタセコイア～三木茂博士から学ぶ～」が2021年11月19日（金）から12月19日（日）の会期で、香川県立五色台少年自然センターで開催された。さらに、当初予定になかったが、「四団体合同パネル展『三木茂博士とメタセコイア』」が2022年3月15日（火）から3月24日（木）までの会期で、香川県庁新館1階ギャラリーで開催された。

同展および一連の記念行事の開催を通じて、メタセコイア命名80周年記念事業連携協議会の構成機関および団体、その他関係機関との連携を深めることができた。また、懸案であった展示室内の照明のLED化工事も大学の支援で行うことができた。深く感謝する。



図2. 寺林優館長による式辞



図4. 三木茂博士が採集・研究したメタセコイア化石とプレパラート



図3. オープニングセレモニーでのテープカット



図5. 三木茂博士に挑戦しようのコーナー

大学博物館等協議会加盟館の活動状況

東京藝術大学大学美術館

藝大コレクション展 2022 春の名品探訪 天平の誘惑

2022年4月2日(土)～5月8日(日)
東京藝術大学大学美術館 本館 展示室1

新しいエコロジーとアート

2022年5月28日(土)～6月26日(日)
東京藝術大学大学美術館 本館 展示室3・4

美しさの新機軸～日本画・彫刻 過去から未来へ～

2022年6月4日(土)～6月12日(日)
東京藝術大学大学美術館 本館 展示室1・2

日本美術をひも解く一皇室、美の玉手箱

2022年8月6日(土)～9月25日(日)
東京藝術大学大学美術館 本館 展示室1～4

コミテコルペールアワード 2022

2022年10月8日(土)～10月30日(日)
東京藝術大学大学美術館 本館 展示室3・4

東京藝術大学大学院美術研究科博士審査展

2022年12月10日～12月25日頃
東京藝術大学大学美術館 本館 展示室1～4、陳列館

工藤晴也退任記念展

2023年1月5日(木)～1月18日(水)
東京藝術大学大学美術館 本館 展示室1・2

東京藝術大学卒業・修了作品展

2023年1月下旬頃
東京藝術大学大学美術館 本館 展示室1～4、陳列館、正木記念館

藝大コレクション展 2023

第一部 巨匠たちの美校学生制作

第二部 各科が選ぶ藝大買上作品

2023年3月31日(金)～5月7日(日)
東京藝術大学大学美術館 本館 展示室1

ヴァーチャル・ボディ：メディアにおける存在と不在

2022年3月25日(金)～4月10日(日)
東京藝術大学大学美術館 陳列館

How will we learn together?

2022年4月15日(金)～4月24日(日)
東京藝術大学大学美術館 陳列館

東京藝大 AAI (アジア・アート・イニシアティブ) 特別企画展

2022年5月1日(日)～5月10日(火)
東京藝術大学大学美術館 陳列館

東京藝術大学芸術情報センターオープンラボ 2022「擬風景展」

2022年5月20日(金)～5月29日(日)
東京藝術大学大学美術館 陳列館

「膠 玄(くろ)と色」古梅園所蔵の古墨と書籍資料

2022年6月5日(日)～6月9日(木)
東京藝術大学大学美術館 陳列館1階、正木記念館

日本画第二研究室 素描展

2022年6月18日(土)～6月30日(木)
東京藝術大学大学美術館 陳列館

工芸総合演習 2022「工芸という行為」

2022年7月15日(金)～7月19日(火)
東京藝術大学大学美術館 陳列館

日本画第一研究室 研究発表展

2022年8月27日(土)～9月7日(水)
東京藝術大学大学美術館 陳列館、正木記念館

うるしのかたち展 2022

2022年9月22日(木)～10月5日(水)
東京藝術大学大学美術館 陳列館

保存日本画創作発表展

2022年10月13日(木)～10月20日(木)
東京藝術大学大学美術館 陳列館2階

赤沼潔退任記念展

2022年11月3日(木・祝)～11月13日(日)
東京藝術大学大学美術館 陳列館

第7回 東京都特別支援学校アートプロジェクト展

2023年1月上旬頃
東京藝術大学大学美術館 陳列館

国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻企画展

2023年3月下旬頃
東京藝術大学大学美術館 陳列館

京都大学総合博物館

企画展「京都大学創立 125 周年展」

2022年10月5日(水)～12月4日(日)
京都大学総合博物館 2階企画展示室

香川大学博物館

第25回企画展「発酵のめぐみ」

2022年7月19日(火)～11月19日(土)
香川大学博物館 展示室

特別展「和田邦坊画業館遊覧展－香川大学博物館編－」

2023年1月18日(水)～3月12日(日) 予定
香川大学博物館 展示室

愛媛大学ミュージアム

企画展「文京遺跡の解明 I キャンパスに眠る弥生の大集落 二千年の時をこえて」

～4月28日(木)
愛媛大学ミュージアム 企画展示室

菊川國夫旧蔵コレクション展

2022年4月11日(月)～7月30日(土)
愛媛大学ミュージアム 第2常設展示室

企画展「糸・紙・織の造形 千代田恵子展」

2022年5月30日(月)～7月30日(土)
愛媛大学ミュージアム 企画展示室

愛媛の首長竜?! 化石－道後姫塚産白亜紀遊離歯化石－

2022年5月30日(月)～2023年3月31日(金)
愛媛大学ミュージアム エントランスホール

第2常設展示ゾーン「聖地へのあこがれ」

2022年8月1日(月)～2023年4月1日(土)
愛媛大学ミュージアム 第2常設展示室

昆虫展 2022

2022年8月6日(土)～8月10日(水)
愛媛大学ミュージアム 企画展示室ほか

学生×museum×プレゼンテーション展

2022年10月3日(月)～11月26日(土)
愛媛大学ミュージアム 企画展示室

宮崎大学農学部附属農業博物館

令和4年度企画展示「のうがく図鑑とSDGs展」

2022年4月5日(火)～2023年3月31日(金)
宮崎大学農学部附属農業博物館 1階展示室

MUSEO ACADEMIAE 第24号
大学博物館等協議会ニューズレター

発行日 2022年6月16日
発行者 大学博物館等協議会
編集 香川大学博物館 087-832-1300
〒760-8521 香川県高松市幸町1-1